



# APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

## APAY 元 副会長

Liew Mun Khai 氏 召天



悲しいお知らせをしなければなりません。

2013年4月7日、アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)元 副会長の Liew Mun Khai 氏が、長い闘病生活の末、マレーシアで召天されました。

故 Liew Mun Khai 氏は、1947年9月7日生まれの元銀行家です。2006年より、クアラルンプールYMCAの会長でした。1966年にYMCAに入会されて以来、レイパーソンとして役員、財務副理事、財務理事、主事を歴任されました。マレーシアYMCA同盟では、常務委員、副会長、主事、会長として奉仕されました。1984年以降、APAYのさまざまな委員会でも奉仕され、2007年～2011年の4年間、APAY副会長として活躍されました。長きにわたるYMCA運動における彼のリーダーシップと奉仕精神は、非常に素晴らしく、称えられるべきものです。YMCA運動への貢献は、YMCAの活動への長年にわたる奉仕と参加を反映するものです。私たちは、非凡な才能を持ち奉仕に生きるプロフェッショナル・リーダーを亡くしました。

Liew氏がイエス・キリストのもとで、安らかな眠りにつかれることをお祈りいたします。コミュニティとYMCAに全身全霊を捧げてくださったLiew氏とその働きを覚え、彼をお与えてくださった神に感謝いたします。

## 総主事デスクより・・・

パレスチナのYMCAを訪問して

アジア・太平洋YMCA同盟総主事

山田公平

今回、世界同盟がパレスチナの地で常務委員会を開催したことは、重要な決断であったと思います。まさに、パレスチナはユダヤ教、イスラム教、そしてキリスト教という3つの宗教発祥の地であり、聖地エルサレムでの権益をめぐって多くの争いを繰り返してきました。今回、現地を訪問し、まさにこの緊張した雰囲気を感じることができました。この地には、二つのYMCAが存在します。イスラエル側にあるエルサレム国際YMCA (Jerusalem International YMCA)とパレスチナ側にある、東エルサレムYMCA (East Jerusalem YMCA)です。東エルサレムYMCAは、パレスチナの人々の権利を強く主張し、そのニーズに応えようと努力しています。一方、エルサレム国際YMCAは異なった宗教間の争いの歴史を顧み、平和と協調をプログラムや建物を通して強く主張してきました。それぞれの地で根を張り、プログラムを通してしっかりと主張しているこの二つのYMCAの働きに感銘し、同時にYMCAの仲間としてここまで身を張ってやっている姿に誇りを感じました。



パレスチナは、人口の60%強が24歳以下の若い人たちという地域です。長く続く政治圧力の中、土地や仕事が奪われ、安定した収入に欠く生活を余儀なくされてきました。特に若い人たちの多くは、15、6歳で学校をやめ、仕事を探すそうです。そんな中YMCAでは、職業訓練の学校を通して若者の仕事作りに協力してきました。毎年150人の若い男女が手に職を得て卒業し、そのうち85%がそれぞれの地元で仕事についているそうです。これは、パレスチナの現実ではすごいことです。

また、もう一つ、ここで強く感じたことは、多くのパレスチナの人々が、イスラエルへの怒りを感じ、同時にこのような外圧に対する自分達の無力さを嘆いているということです。イスラエル側の軍事的、政治的優位性により、パレスチナの人々が先祖から受け継いできた土地を取り上げている事実を見せ付けられました。エリコ(ジェリコ)からエルサレムに行く道から見えるものは、砂漠と岩山です。しかし、その山の頂上には、近代的な住宅やビルが建てられています。いわゆる「セツルメント(入植地)」と呼ばれているユダヤ人達の住宅です。こんな砂漠の山にも、イスラエルからユダヤ人家族が実質的に入り込み、セツルメントを作り、そこを塙で囲んで、ユダヤ人の住む地域を広げつつある事実を見ました。10メートル以上もあると思われるようなコンクリートの壁、それはパレスチナ側からの侵入を防ぐための壁で、まるでパレスチナ人の存在を脅かしているような力をもっていました。そこに土地を奪われているパレスチナ人の「どうしてこんなことが起きているのか」という怒りと「この事実をわかって欲しい」という気持ちが強く伝わってきました。このような現実に対して、YMCAとYWCAが一緒になってオリーブ植樹を行い、パレスチナ側の権利を主張し、抵抗している姿を見ることができました。それにも拘らず、植えられたオリーブを根こそぎ引っっこ抜くイスラエル側の力による圧力。多くのパレスチナ人がこのように自分達の土地を奪われ、難民としてあちこちに移住をしています。

イスラエルによるパレスチナ侵入に反対するデモが各地で行われ、多くの若者も参加をしています。その結果、多くの若者が捉えられ、牢獄に送り込まれます。そこでは尋問が行われ、罪人として扱われます。この中には子どもも多く含まれています。2001年から2010年までの10年間に捕らえられた12歳から18歳までの逮捕された数は、8千人に及んでいます。逮捕されると、平均して5ヶ月間、他の大人と一緒に牢獄で過ごし、その中でつらい尋問にもあって、精神的肉体的に弱り果ててしまうケースが多くあります。ベツレヘム近くにある東エルサレムYMCAリハビリセンターはこういう若者を預かり、専門家によるカウンセリング、家族への支援を丁寧に行っていました。子ども達が、すごした牢獄での生活はその後の生活のトラウマにもなり、長く精神的に患

うケースも稀ではありません。このセンターでは、毎年370人の子どものためのカウンセリングを行い、彼らの生活復帰を促す大切な役割を果たしていました。東エルサレムYMCAは、そのような現実に屈せず、パレスチナ難民への支援活動を続けています。

一方、イスラエル側にあるエルサレム国際YMCAは、1933年に建てられた際立つ存在の建物です。エルサレムは、ユダヤ教、イスラム教そしてキリスト教といった3大宗教の聖地であり、それぞれが自分達の主張をし、権利を守るため、互いに戦い続けてきた歴史をもつ地です。80年前、YMCAは、そのエルサレム中心街に背の高い塔を立て、宗教の違いやユダヤ人、アラブ人という民族の違いを乗り越えた平和な社会を祈るシンボリックな建物となっています。この地で、平和を願った活動を展開してきました。1990年代には、この活動が認められ、ノーベル平和賞候補として推薦されたこともあったということです。YMCAには、ホテル、ジムやスイミングクラス、幼稚園などが行われていますが、すべてのプログラムに、ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が含まれ、ユダヤ人もアラブ人も、違いを超えて参加することが可能となっています。YMCAの職員もボランティア役員も違った宗教を持つ人たちがほぼ均等に採用されているという珍しいYMCAです。

このYMCAの建物の正面には、こういう言葉が刻まれています。「ここは、政治的、宗教的なねたみを忘れ、平和への願いと国際的な協調が生み出される場所である。」  
“Here is a place whose atmosphere is peace, where political and religious jealousies can be forgotten and international unity fostered and developed” (April 18, 1933).

## リソース・モビライゼーション会議報告

Eloisa Borreo

個人的にも、今年のNAYDO(北アメリカYMCAファンドデベロップメント担当者会)にAPAYが招かれ、ともに達成してきたことを報告し、共有する機会を与えられたことは、今までとは異なる経験となったと言わざるを得ません。世界Y

MCA大都市ネットワーク(WUN)と世界YMCA同盟のインベスターズ・サークルがAPAYのリソース・モビライゼーション・プログラムを支援してくださっているため、私たちはAPAYを代表して4月10日の会議に出席しました。また、APAYを代表して、カナダ国際開発団(Canadian International Development Agency: CIDA)の大臣と面会し、アジア・太平洋地域のユースの現状や、ユースの抱える課題にYMCAがどのように支援しているか、概要をお伝えすることができました。また、金曜日の午後には、世界各地からの出席者も交え、フィランソロピー(慈善、人類愛の精神)フォーラムにて、APAYがリソース・モビライゼーションや資金開発においてどのようなことを成し遂げたか報告する機会も与えられました。

また、2012年に行われた1年目のAPAYリソース・モビライゼーション・プログラムにボランティア・コンサルタントをしてくださった皆様にも感謝を申し上げます。4月9~13日に行われたNAYDO会議には、多くのボランティア・コンサルタントの方々が参加されていたので、APAYのリソース・モビライゼーション・プログラムを次のステップに進めるタイムリーな動きがありました。その会議は4月13日の12時~18時、カナダ・バンクーバーのロバート・リーYMCAにて行われました。このミーティングへの参加者は以下のとおりです。

1. Mr. Ron Coulombe カナダ・エドモントン  
 -APAY リソース・モビライゼーション・プログラム コーディネーター
2. Ms. Brenda Blakovich アメリカ・ケンタッキーYMCA  
 - リソース・モビライゼーション研修 北インド担当
3. Ms. Jamie Inman, アメリカ・グリーンビルYMCA  
 -リソース・モビライゼーション研修 南インド担当
4. Ms. Jessica Rawn, カナダ・シムコー／ムスコークYMCA  
 -リソース・モビライゼーション研修 スリランカ担当
5. Mr. Paul Andresen, アメリカ・アナハイムYMCA  
 -リソース・モビライゼーション研修 フィリピン担当
6. Mr. Jose Varghese, インドYMCA同盟  
 -リソース・モビライゼーション研修 インド担当
7. Mr. Pablito Tabucol, フィリピンYMCA同盟  
 -リソース・モビライゼーション研修コーディネーター

8. Mr. Charith de Silva, スリランカYMCA同盟  
 -リソース・モビライゼーション研修・コーディネーター
9. Mr. Jon Vance, バングラデシュ担当ボランティア・コンサルタント(暫定)-バングラデシュでの研修企画
10. Mr. Jim Pacey, 日本担当ボランティア・コンサルタント(暫定)-日本での研修企画
11. Elsie Borreo, APAY 主任主事  
 -APAY リソース・モビライゼーション担当



70人の海外からの参加者を含む全1,000人を超えるNAYDO会議の出席者、参加者、リソース・パーソンの中でも、上記のリストにある方々は際立ったものです。朝から晩まで行われたワークショップや関連イベントやミーティングの他、初めて参加したボランティアやコーディネーターのために特別な集まりも行われました。この特別なミーティングやリトリートの内容は下記のとおりです。

APAYのリソース・モビライゼーション・プログラムにご奉仕くださるボランティア・コンサルタントの皆様をあたたく歓迎し、感謝するため、4月12日に、すべての参加者とナショナル・コーディネーターの皆様のために特別なディナーをご用意しました。APAYと各国YMCA同盟より、2年目の研修に向けた優れた実践や成果についての協議、また、3年目の研修を「APAY リソース・モビライゼーション・サミット」としてトレーナーを育成するための企画・計画について話し合われました。この日は、APAYのリソース・モビライゼーション・プログラムにかかわるすべての成果やボランティアによる奉仕と参画を祝いつつ、幕を閉じました。



**グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク  
 (GATN) 担当者対象研修ワークショップ報告**  
 Duncan Chowdhury

GATN プログラム担当者対象の研修ワークショップが、2013年4月17日～21日、フィリピン・ガグパン市にあるパンガシナンYMCAにて開催されました。アジア・太平洋地域のYMCAでオルタナティブ・ツーリズムのプログラムを現在行っている担当者と、オルタナティブ・ツーリズム・プログラムの計画をしているYMCAの担当者が計15名参加しました。

ワークショップは、フィリピンYMCA同盟会長の Felix Eliral R. Refuerzo 氏が出席される中、APAY 山田公平総主事の挨拶によって始められました。前日には、マニラのYMCAによる歓迎夕食会が開かれました。

ECOT (Ecumenical Coalition on Tourism) 元ディレクターの Ranjan Solomon 氏、Climate & Energy、Bread for the World というプロテスタントの開発に関する団体で政策アドバイザーである Sabine Minninger 氏、そして Duncan Chowdhury と Chan Beng Seng 氏がワークショップをコーディネートしました。

ワークショップの各セッションでは、オルタナティブ・ツーリズムの基礎的原理の説明、YMCAのオルタナティブ・ツーリズムへの取り組み、オルタナティブ・ツーリズム施設認定の要件と手続き、受入YMCA・送り出しYMCA・滞在者の行動規範、オルタナティブ・ツーリズム・プログラム運営の本質／核心などについて取り上げられました。参加者は、気候変動とツーリズム、そして気候変動に対する世界規模の政策提言の関係性についてさらに学びを得ることができました。

プログラム中、最も興味深かったことのひとつは、1日ばかりのエクスポージャー・トリップを通して、パンガシナンYMCAがどのようなオルタナティブ・ツーリズム・プログラムを提供しているかを目にする機会があったことです。豊かな伝統文化、地元の食事、塩田への訪問や穏やかな海での集まり、自然にあふれる美しく小さな島でのシュノーケリング体験が旅をさらに価値あるものにしました。

マス・ツーリズム(大衆的な観光業)の悪影響について効果的に対応し、下記の“CHANGE アプローチ”

- C (community-centered)  
 訪問するコミュニティの現実にふれ、エンパワーする
- H (holistic)  
 文化の豊かさ、工夫などその地の知恵を学ぶ

- A (advocating Global Citizenship and Global Networking)  
 正義や人権など考えお互いが関係していることを学ぶ
- N (nature sensitive)  
 環境に責任ある行動をとる
- G (gender and child sensitive)  
 女性や子どもの人権、搾取的な行動に注意を払う
- E (economically viable and productive)  
 観光をとおして利益が得られ、その利益が地元還元するように工夫する

に基づくオルタナティブ・ツーリズムを広めるため、各国YMCAまたアジア・太平洋地域で、このような研修ワークショップがさらに行われる必要性を感じます。

APAY は、パンガシナンYMCAおよびフィリピンYMCAの念入りな受入準備に厚くお礼申し上げます。



**APAY ソーシャル・エコノミー研修 参加者募集**

APAY の主催による初の「ソーシャル・エコノミー・ワークショップ」が6月26日～7月1日に韓国・ソウルにて開催されます。

YMCAにて社会企業活動にかかわりのあるレイパーソンやスタッフ、またこのようなプログラムを開始したいと特別な関心のあるレイパーソンやスタッフに、このワークショップへの参加を期待しています。

### | バングラデシュYMCA同盟 Raymond Areng 会長が就任

2013年3月15日に開催されたバングラデシュYMCA同盟の第36回総会において、Raymond Areng氏が会長に選出されました。Areng氏は、ダッカ大学の学生であったときにダッカYMCAのユース・クラブに参加したことがきっかけで、YMCA運動にかかわりを持ちました。出身の村に戻り教師となった後、1998年からはビリシリYMCAの賛助会員となり奉仕を始めました。2002年、メキシコ・オアステペックで開催された世界YMCA大会に参加し、テントでのセッションを成功させました。Areng氏はビリシリYMCAの会長を3期務め、また同YMCA副会長、役員としても数期間活動されました。また、バングラデシュYMCA同盟では、これまでに副会長、財務役員としても奉仕されています。



### Uni-Y、College Y 学生常務委員会就任式 および 10周年記念夕食会



2013年3月22日、8つのUniversity YMCAおよびCollege YMCA 学生常務委員の合同就任式が開催されました。彼らは全員が壇上で「今後、University YMCA と College YMCA にかかわり、コミュニティーに奉仕します」と誓いの言葉を述べました。

今年はUniversity YMCA と College YMCA の設立10周年に当たるため、10周年記念夕食会にはさまざまな大学から学生、卒業生、来賓など全350人が参加しました。著名な歌手のPeter Cheung氏が10周年のテーマソングを作曲くださり、学生委員たちが一緒に歌えるように指導してくださいました。夜には、学生によるゲームやパフォーマンスが行われ、来賓の方々と多くの思い出深く楽しいひと時を過ごしました。

### | 香港中華YMCA

#### 香港大学 Uni-Y 調印式



香港大学に9番目となるUniversity YMCAが設立され、香港中華YMCA会長のCecil S.O. Chan博士、香港大学の副総長・学長のRoland T. Chin教授が参加した調印式が2013年3月21日に行われました。この式典は、香港中華YMCAと香港大学の間にUni-Yパートナーシップ・プロジェクトが構築されたことを象徴しています。式典では、香港大学の学生たちが、最近参加したネパールYMCAの奉仕の旅の忘れられない思い出やその振り返りについて、来賓の方々に報告しました。

発行元  
アジア・太平洋YMCA同盟  
Asia and Pacific Alliance of YMCAs  
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail: office@asiapacificymca.org